

海況速報

平成10年度 第3号 (通算 No.63)
平成10年9月18日
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは

中央水試海洋部 0135-23-4020

7月下旬～8月上旬の海況

【日本海海域】

前回（6月）留萌西方あたりに北限があった対馬暖流は、100m層で6℃の等温線が宗谷海峡西方まで延びたことから、宗谷海峡まで達しています。また、津軽海峡西方沖合にあった暖水渦と冷水帯はなくなっています。今回、武蔵堆南西側斜面に接するように暖水渦（中心：200m層水温3℃以上）が形成されています。

水温について見ると、北緯45度30分線では、累年平均（*1）に比べ、礼文島より東方で各層約-2.8～-0.6℃の範囲、礼文島北西沖定点では各層約-1.8～-0.6℃の範囲で、これらの海域では表面に近いほど低くなっています。北緯44度30分線上の天売・焼尻島北西沖および北東沖定点では、累年平均に比べ、表面では-2.2～-1.0℃、50m層では-3℃となっています。北緯43度30分線では、累年平均に比べ、石狩湾湾口部の表面で+0.9℃、50m層で-3.1℃、積丹半島北西沖定点の100m層で-0.5℃、50m層で-2.2℃、表面で+0.9℃になっています。北緯42度30分線では、累年平均に比べ、瀬棚沖の最も岸寄りの定点の200m層で-0.9℃ですが、100m層で+1.8℃、50m層で+0.4℃、表面で-0.6℃となっています。松前西方で最も岸寄りの定点では、累年平均に比べ、100m層で-0.5℃、50m層で-2.6℃、表面で+0.9℃となっています。

余市における7月中旬以降9月上旬までの沿岸水温（旬平均）は、平年値に比べ、7月中旬の+0.5℃（「平年並み」）から一時8月上旬の+1.2℃（「やや高い」）まで上昇しましたが、その後8月中旬の-1.3℃（「やや低い」）まで下降し、9月上旬には+0.2℃（「平年並み」）になっています。

【道東太平洋海域】

前回（6月）、北緯41度以南の海域に入り込んできた黒潮系の暖水は、先端部が前回とほぼ同じところに留まっています。

水温について見ると、前回道東沖の広い海域で、50m・100m層では1～2℃台になっていましたが、今回は昇温していて3～5℃台になっています。道東沿岸の50m層の最も岸寄り定点の水温は、累年平均に比べ、白糠沖で-0.9℃、厚岸沖で-4.2℃、根室半島沖で-2.2℃となっていますが、白糠沖（5.38℃）と厚岸沖（5.03℃）では8月として1989年以降で最も低い水温になっています。

【道南太平洋海域】

道南太平洋海域では、津軽海峡から道南太平洋海域に流入する津軽暖流（たとえば100m層では水温8℃以上）は、前回（6月）まで、青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下していましたが、今回は、北海道沿岸近くまで大きく蛇行してから三陸方向へ南下する渦モード(*3)の状態になって流れています。そのため、100m層以浅では水温が8℃以上になっています。今回の場合、津軽暖流の流れの軸は、例えば、50m層水温13℃線に沿っているようです。

水温について見ると、累年平均に比べ、白老南方観測線では白老沿岸北緯42度10分の定点の50m層で+3℃、恵山岬南側定点の50m層で-4℃となっているのを除き、各層-1.2~+2.4℃の範囲内にあります。浦河南西観測線では、累年平均に比べ、浦河沿岸に最も近い定点の50m・100m層で+3.8~+4.2℃となっているのを除き、各層-1.4~+3.1℃の範囲内にあります。

【オホーツク海海域】

50m層水温を見ると、12℃以上の範囲が宗谷海峡から知床岬先端まで延びていて、宗谷暖流は順調に流れています。宗谷海峡から形成される冷水帯については、前回（6月）同様あまり発達しておらず、宗谷海峡から紋別沖までは連続していないようです。宗谷岬のすぐ東側の定点では、冷水帯の水と思われる水が見られています。

水温について見ると、累年平均に比べ、最も岸寄りの50m層水温は、浜頓別沖では-1.3℃、紋別沖では-1.4℃、網走沖で+1.3℃、知床岬沖で+0.1℃で、紋別以西でやや低い水温になっています。

資 料 〔観測期間〕

青森水試（東奥丸）	平成10年7月28日～同7月29日（東北日本海海域）
稚内・中央水試（北洋丸）	平成10年7月27日～同7月29日（道北日本海海域・オホーツク海海域）
稚内・網走水試（北洋丸）	平成10年8月3日～同8月5日（オホーツク海海域）
釧路水試（北辰丸）	平成10年7月31日～同8月4日（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	平成10年7月27日～同7月28日（道南太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	平成10年7月28日～同8月1日（道西・道北日本海海域）

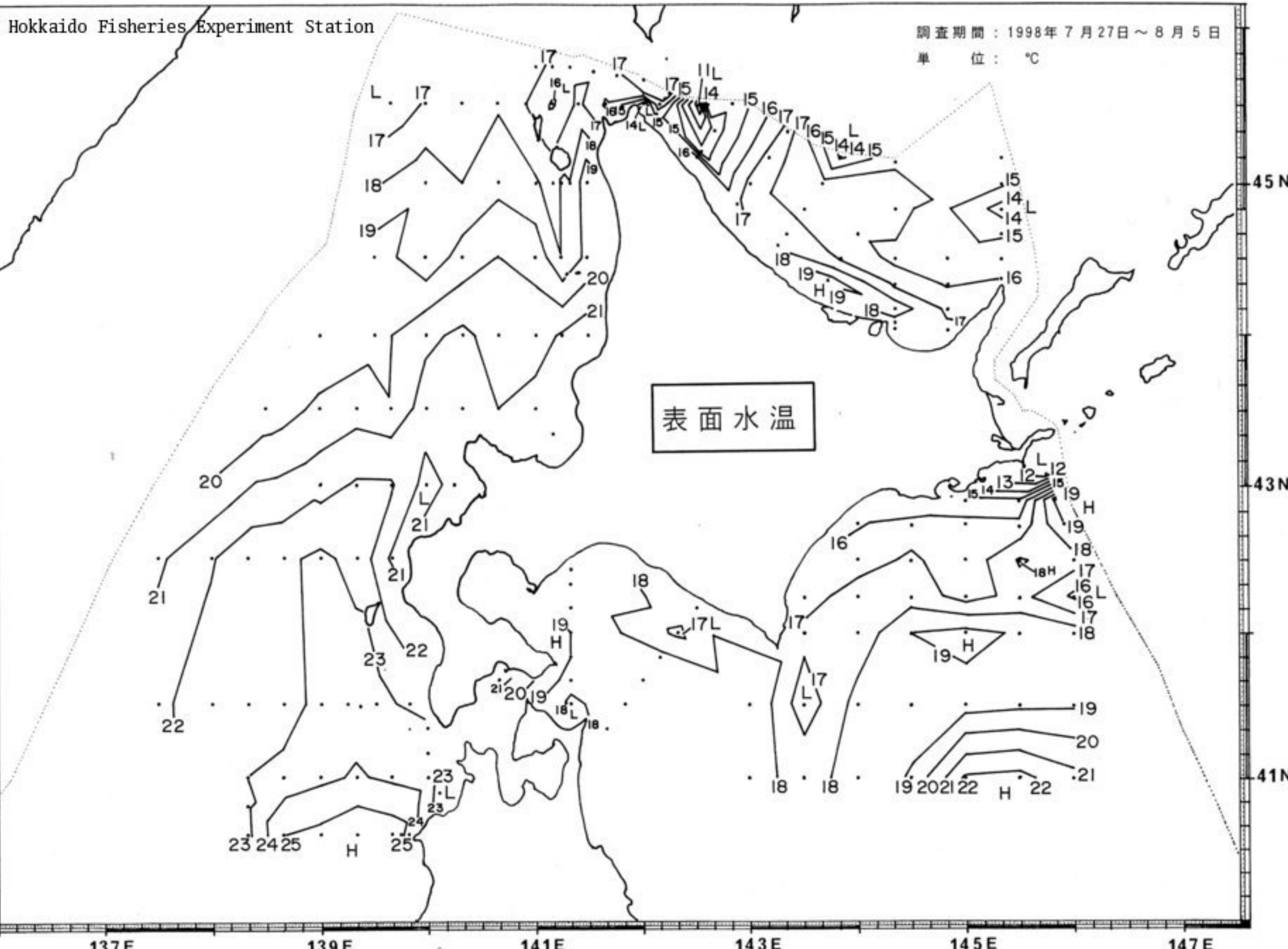
*1: 平成元(1989)年～平成9(1997)年までの平均値を使用しました。

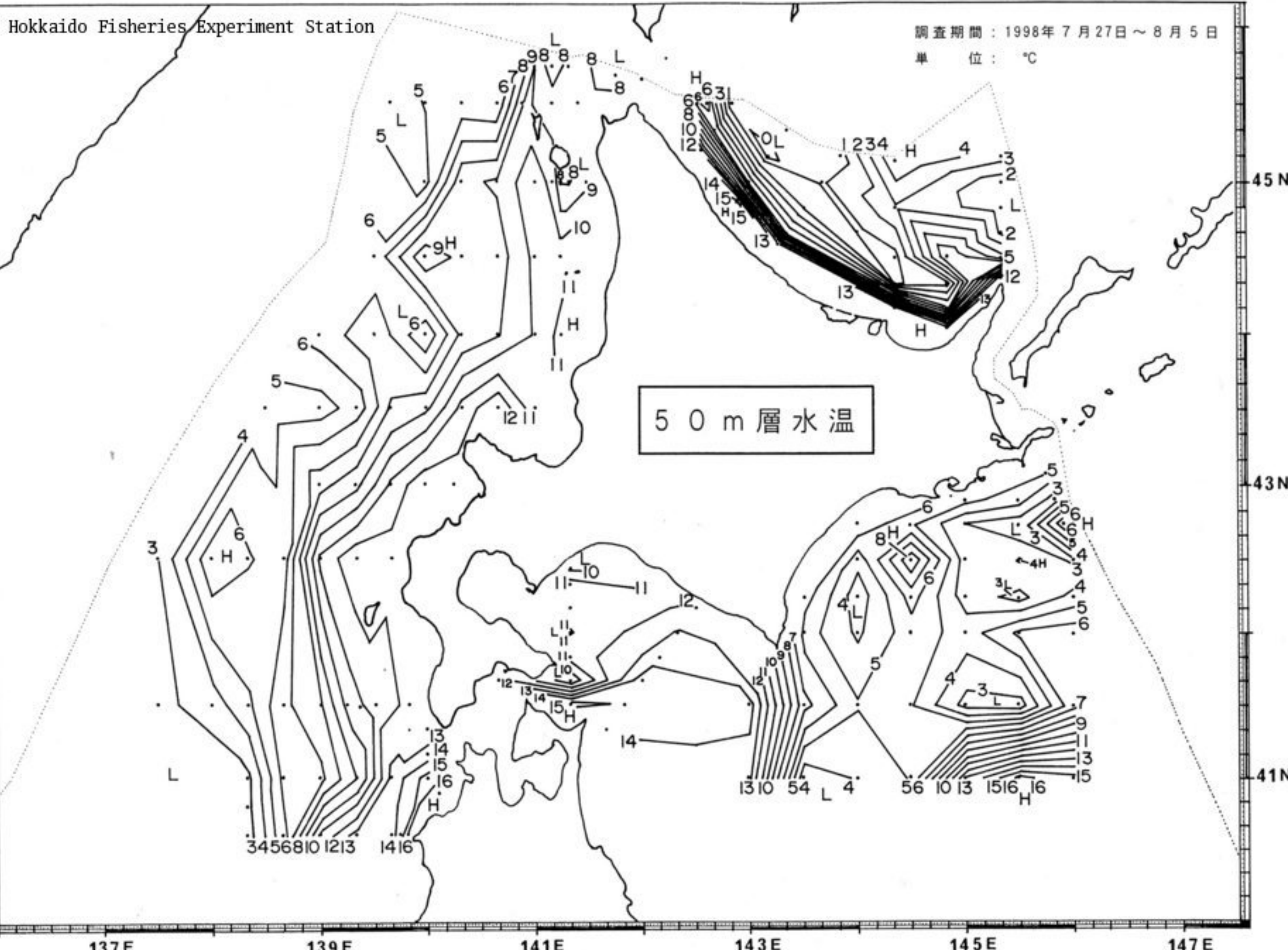
*2: 津軽暖流が青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。

*3: 津軽暖流が北海道沿岸近くまで大きく蛇行してから三陸方向へ流れる状態を、津軽暖流の「渦モード」と呼んでいます。

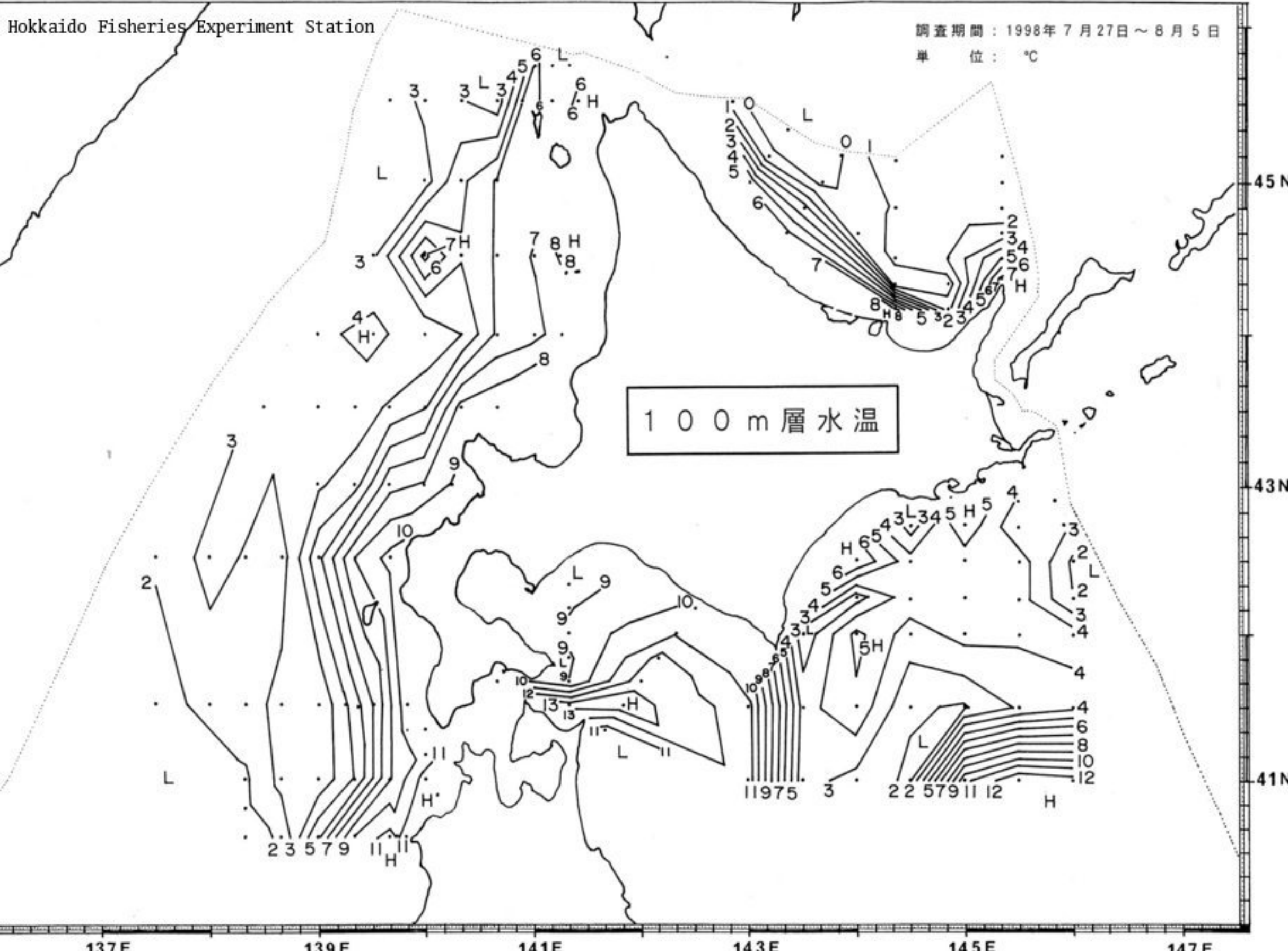
(中央水試 海洋部)

表面水温





100m層水温



137E

139E

141E

143E

145E

147E

45N

43N

41N

200m層水温

